

SMF PRESS

Vol.28 Jan. 2017



SMF学校修了式が賑やかに行われました!!
2016年12月11日。さいたまトリエンナーレの最終日、SMF学校では「修了式」を開催。

はじめに、SMF学校のプログラム5つ

以上に出席した参加者に三浦理事長から、一人ひとりの参加者に声をかけながら修了書を授与。中には、SMF学校のプログラムに10回参加した市民の方も！

その後、参加アーティスト、参加者、トリエンナーレをつくってきたスタッフから「SMF学校」や「アートの場」について、自由に意見を出し合いました。

様々な立場の人たちが集まり対話をする場は、SMF学校が会期を通してつくった「輪II作品」であると感じました。

次に、SMF学校のプログラムを振り返りました。

ひとつひとつのプログラムに込められたアーティストの熱い思いやプログラムの中で起きたこと、裏話などを共有でき和やかな時間が流れました。

最後に、「未来へ!」のメッセージを発信しながら、全国を回っている未来芸術家の遠藤一郎さんが特別ゲストで登場!
『未来へ号』に、夢を描きました。

2016年9月24日〜12月11日のさいたまトリエンナーレの79日間、SMF学

校がわくわくする場として展開できたことは、参加者の皆様をはじめ多くの方のご支援・ご助力の賜物でした。改めて心から感謝いたします。
(S・A)



おむすびコロリン、おなかの旅

11月にしては暖かな日差しの中で、透明シートにうずくまった自分を型取り、夢模様な彩色をほどこす子供たち。そこへ、近くで遊んでいた子供たちが「わたし(ぼく)も描かせてください。」と、丁寧な言葉で仲間に入ってきます。そうして描かれた作品『おなかの中にいた時の私』は、建築廃材で作られた大きな三角錐に掲示され、公園を彩ります。

これは、11月12・13日に北浦和公園と埼玉県立近代美術館講堂で行われた、多ジャンル共同ワークショップの一風景です。講堂では『大切な物、栄養となっているもの』を子供たちが無心に飾り、公園と講堂の造形を舞台として、電子音楽で踊るダンス「おむすびコロリンおなかの旅」を体験しました。

建築、美術、電子音楽、ダンスによる多ジャンル共同ワークショップは、参加した子供たちだけでなく、企画した私たちにも色とりどりの種を蒔いたようでした。(K.F)



夢模様にお絵描き中



造形を舞台にダンス!



みんなの作品をみんなで鑑賞中



『大切な物』をこうして飾るの



おむすび君、おなかの中から外に出る!(ダンスシーン)



『大切な物』コラージュ完成

*写真:浅見俊哉

OKAERI OKAWARI KITAURAWA

美術館

2016年11月11日~11月20日



出店 久夫(スライドと光による時の窓)(北浦和駅)



小野養豚ん(...pigeep...pigeep...)(北浦和公園)



古川勝紀(Last Restaurant in 北浦和)(西口銀座商店街)



石上城行(記憶の窓-めぐる街なみ)(西口銀座商店街)

商店街や公園、美術館を結び、身近な場所でアートを楽しもうと地元商店街の協力を得て続けてきたプログラムの第3弾。今回は「北浦和おかわり芸術祭」の一環として「食」をメインテーマに、古川勝紀、小野養豚ん、間島領一らの実力作家が、ユーモラスでありながらズクとする妖しさやスパイスの効いた作品を楽しませてくれました。また出店久夫は、駅やATMコーナー、イオン店内などの日常空間を束の間、私的な記憶と祈りの空間に変容させました。石上城之は街なみに溶け込むように家型のテラコッタのベンチを設置、三友周太はイオンでのワークショップで制作された作品を店内に展示しました。匂いにまつわる記憶をテーマに地元商店街で展開を図った井上尚子、巨大シャボン玉ワークショップの藤原昌樹も好評でした。(M.N)

連携美術館情報

入間市博物館ALIT
「市制施行50周年記念 第20回 むかしのくらしと道具展」2016/12/23~2017/2/14

人間のむかしってどんなところだったのかな? 本展では昭和初期と昭和30~40年代の二つの時代を取り上げ、当時の生活用具や写真を多数展示します。会期中は関連事業ももりだくさんです。



行う「アーティスト・イン・スクール」。今年度は尾引浩志さん(パフォーマー)と辻小学校の3年生82名が、身のまわりから素敵な「音」を見つけ出し、それをきくための手順を記した「音のおしり」を制作しました。発表展では、しおりに記されたアイデアを来場者が実践。新鮮な驚きとともに「音宇宙」の旅を楽しんでいる様子でした。

川越市立美術館
「招き猫亭コレクション 猫まみれ展」2017/1/14~3/12

猫を愛してやまない美術コレクター・招き猫亭氏が約40年に渡り収集してきた、猫をモチーフにした美術品を選びすぐてご紹介。テオフィル・アレクサンドル・スタンラン、オーブリー・ピアズリー、レオナルド・フジタ(藤田嗣治)、横尾忠則の作品など、数多くの作家の作品をご覧ください。猫ファン、美術ファンはもちろんのこと、幅広い世代の方々に楽しんでいただける展覧会です。



うらわ美術館
報告「江戸の遊び絵づくし」2016/11/19~2017/1/15

江戸時代に庶民の人気を博し、現代ではその芸術性を世界から注目されている浮世絵版画。美人画などの従来のイメージを吹きとばしてしまうほど、不思議でおもしろい「遊び絵」の世界を紹介しました。謎解き、隠し絵、身振絵などを展示、斬新なアイデアやユーモラスな表現が鑑賞者の目を楽しませていました。



川口市立アートギャラリーATLIA
報告「第11回アーティスト・イン・スクール成果発表(ひびけ!ひろがれ!音宇宙)」2016/12/3~12/25

川口市内の小・中学校にアーティストを派遣し、特別な授業を



埼玉県立近代美術館
「カッサンドル・ポスター展 グラフィズムの革命」2017/2/11~3/26

フランスで活躍したカッサンドルは、20世紀を代表するグラフィック・デザイナーです。1920~30年代に打ち出したダイナミックなポスターは、都市の街頭を演出する先駆的な表現として、その後の広告美術に大きな影響を与えました。都市と広告の刺激的な出会いを求めたカッサンドルのポスター芸術を代表作でたどります。(A.O)

